

災害時の健康

クラッシュ症候群

(座滅症候群)

クラッシュ症候群とは？

クラッシュ症候群とは、大地震などで家屋や家財などの下敷きとなり、身体が長時間（おおむね2時間以上）といわれています。圧迫されることにより起こります。

阪神大震災では多数の患者（372名）がクラッシュ症候群を発症し、50名がそれにより死亡したと報告されています。（実際はもっと多かったと考えられます。）



クラッシュ症候群が身体に及ぼす影響

お尻や太ももが長時間圧迫されると、筋肉が押しつぶされ、筋肉の中にある細胞の物質が血液中に流れ出し、腎臓や心臓に悪影響を及ぼします。放置しておくことと心停止をおこすことがあります。

クラッシュ症候群は、呼吸・血圧・意識の異常はなく、外見では打撲程度としか見えません。

しかし、直ちに医師の治療を受けることが必要です。

このようなききは…

大地震が発生し被災した時、次に当てはまる場合はクラッシュ症候群を疑ってください。

- 2時間以上にわたり、腰・腕・太ももなどが、がれきの下敷き状態であった。
- 軽度の筋肉痛や手足のしびれ、脱力感の症状がある
- 尿に血が混じり、茶色の尿が出る

- 尿の量が減る

被災者を救出したら…

もし、長時間、家屋や柱などで圧迫された人を救出した場合には次のように行ってください。

① 水分の補給

スポーツドリンク（カリウムを含まないもの）や水、お茶など、なるべく多くの水分を飲ませる。

② 布などで縛る

手足を押しつぶされた部分よりも心臓に近い箇所をタオルなどの幅のある布で縛る。（縛る時間が長いと、縛った箇所から先まで血液が流れず、細胞が死滅し、壊死を起こしてしまう場合がありますので注意が必要です。）

③ 救急隊に伝える

- わかる範囲で救急隊に次のことを伝える。
- 圧迫されていた時間
- 部分
- どのようなもので圧迫されていたのか

救出したら、水分の補給が必ず必要です。

また、点滴や、血液を浄化するための透析治療や処置を行わなければなりませんので一刻も早く医療機関への搬送が重要です。

災害現場での救出の主役は、家族や友人、近所の人など、地域の住民である可能性が高いと思われます。

クラッシュ症候群と疑われるような人を見つけたら、すぐに周りの人に知らせ、対応してください。

そして自分自身が災害時にがれきの下敷きになるなど、長時間身体を圧迫されていた場合は、症状はなくてもすぐに周囲の人に知らせてください。

○お問い合わせ

- 健康福祉課 保健衛生係
- 大方総合支所
- ☎ 43-2836 (直通)
- 佐賀総合支所
- ☎ 55-7373 (直通)

当直医療機関一覧表

月	日	四万十市		宿毛市	
7月	13日(第2日曜日)	さくらクリニック	☎35-2555	川村内科クリニック	☎0880-66-2911
	20日(第3日曜日)	四万十市民病院	☎34-2126	幡多けんみん病院	☎0880-66-2222
	21日(海の日)	森下病院	☎34-2030	聖ヶ丘病院	☎0880-63-2146
	27日(第4日曜日)	佐々木整形外科	☎34-7177	沢田医院	☎0880-63-2304
8月	3日(第1日曜日)	四万十市民病院	☎34-2126	田村内科クリニック	☎0880-63-1668

※当直医は変更になる場合がありますので、あらかじめ確認してから受診してください。